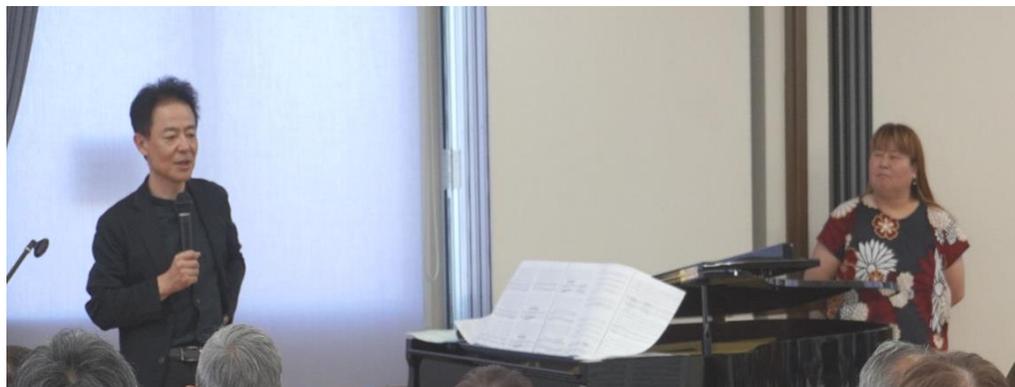


音楽のよろこび

2024年 9月16日 No.60
発行文責 担当事務局
田中正恭 田村乃里子



まだ暑い、でも少しだけ朝晩はマシでしょうか？
前回の特別講座「指揮・指揮者とは・・・」皆様いかがでしたでしょうか。金本さんの軽妙率直な問いかけ、そしてお話する事が山ほどあることがよくわかる阪さんのお答え。私達によくわかるように、極力難しい言葉なしに、指揮や指揮者のスコア（総譜）の読み方から始まり、指揮者とオーケストラとの関係、音楽づくりの本質に迫るような指揮者とオーケストラのダイナミズム・・・深いお話だったと思います。この時間のノートを不十分で抜けたり誤りもあるかもしれませんが、事務局の責任で作りました。カットしたりした部分も多いのですが、一度お読みいただき、あの密度濃く楽しい時間のふり返りの参考にして頂ければと思います。

指揮者はスゴイ！！皆様のアンケートにも「魔法使い」とか「スーパースターで普通の人」とか「本質だ！！」と思う言葉があり、感心致しました。

お話全体から、（田中流）に言うと、とにかく演奏する楽曲に必要な考えられるすべての要素、譜読みはもちろん、その曲の時代背景、その作曲家が同時期に作曲した別の曲の研究・知識、それらを分析総合し、深め、指揮台に立つ時は、演奏家に尊敬の念を持ちつつ自分の音楽性でもって曲をどう演奏するかを説得力を持ってメンバーに要求する力量を内在した人間性を体得した人だけが、本当の意味で「よい指揮者」かなと受け取りました。

時代によって求められる指揮者像も変わってきた事も、金本さんの発言でわかったように思います。

受講生の皆様も「本当はもうちょっと聴きたかったなあ」「ちょっと質問はおそれ多くて・・・」「初心者だから・・・」とお考えの方もあったかもしれませんが、遠慮はいりません。質問で多くの方が「分かった！！」が増える事もあるのです。



どうぞ次からは、勇気をちょっと出して、一緒に楽しみましょう。

まだ余韻が暫く続きそうです。

阪先生、金本さん、杉江さん、木下さん、一樂さん、本当にありがとうございました。

☆今日は特別講座、「作曲家などのお話」☆

今回初めての企画、音楽評論家の小味洸彦之さんの登場です。ヴァイオリン：杉江洋子さん

ピアノ：沼光絵理佳さん

「音楽」の全般のフィールドで大活躍の小味洸さん、どんなお話が聞けるのか興味シンシンです。どうぞよろしくお願いします。

～アンケートから～

いつもアンケートにご協力ありがとうございます。
アンケートは一部抜粋したものとあります。ご了承ください。

指揮者の耳、洞察力、コミュニケーション力（伝達力）がプロの音をこんなに変わってしまうんですね。感心しました。指揮者ってスーパースターで普通の人なのでしょうね。楽しい時間をありがとうございました。（布川 博さま）

本日はこれまでとは異なる志向で、弦楽四重奏、ヴァイオリンとピアノのアンサンブル、指揮のお話、歌劇のお話と盛り沢山で、充実した時間を楽しむことができました。ありがとうございました。アイネクライネナハトムジークでは指揮の違いによる演奏のメリハリを味わうことができました。それからピアノの曲、TVドラマのクライマックスに登場する曲のようで素敵な曲でした。そして久しぶりのアンダンテカンタービレ最高でした。心が豊かになる一日でした。（荒井さま）

指揮者の方のご苦労の一端を知ることが出来ました。でもやっぱりオーケストラを束ねるのがすごいなと思います。それと、指揮者の思いをくんで求められる音をすぐ出せる演奏家の方たちもすごいなと思います。ありがとうございました。

本日は「指揮」がテーマということで、私がお話を聞いてもわかるだろうか・・・！と心配な気持ちで講座に参加しました。スタートから金本さんと阪先生との楽しい質問コーナーで始まり、あっという間に話に聞き入っていました。途中、素敵な演奏も入り、大変すばらしい時間を過ごせました。知らなかった世界をのぞけた気がします。最後にチャイコフスキーメドレー最高でした！！

指揮者の方の話を詳しくお聞きできる経験は初めてでしたが、まずはアイネクライネを指揮者なしと指揮者がタクトを振って演奏するところから始まり、演奏の微妙な違いがよく分かり、そのあとのお話への足がかりとして興味を持って聴くことができました。（藤井さま）

指揮者の役割についてはあまりよくわからないのですが、アイネクライネの四重奏が阪さんの指揮が入ると明らかに各楽器の輪郭が浮き上がったと感じました。チェロの低音、ヴィオラの効果が私の貧しき耳にもひびきました。音楽の音はすぐに消えてゆく芸術ですが、その刻（とき）を耳にきざむ一音（いちおん）をとぎすまし調和させる役割を指揮者が担っているのかなと思いました。ピアノはサスペンスタッチの目のさめるような演奏には本当に眠気がさめました。ヴァイオリンのキッキする音がサメ（シャーク）の光る歯やうねる波を連想してミステリアスでした。指揮者は「考えを明らかにすること」が演奏ということ、とても大切だと思いました。ピアノも弾いてくださりありがとうございました。（外村律子さま）

寡黙に見えた（！）阪さんの指揮者アルアル・オペラアルアルのお話、楽しく聞かせていただきました。作曲家の思いをくみ取りながら色づけ、コントラストをつけていく絵を描くようなステキな、but 大変な努力の必要なお仕事だと学びました。コンサートホールでお会いできるのを楽しみにしています。

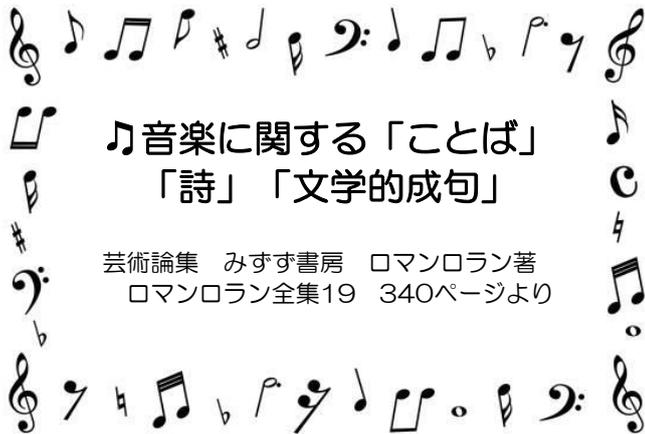
指揮者の講座ということで、どのような講座になるのかと思っていたが、大変楽しい講座でした。指揮にまつわる事件（？）失敗（？）の話で、生の舞台演奏が伝わってきました。

本日は前から3列目。ピアノの斜め後方で足元が見える位置、指揮者はどんな練習をするのか？？？とか、オーケストラの指揮の練習、ピアノ2台で音の出す感じを掴むとの話、貴重で初めて聞かして頂いた。指揮することで音楽が彩られ情感が出ることが判り、面白いものでした。またコルンゴルト作曲のきれいな音のヴァイオリンソロ演奏に、幸福感に満たされました。最後のチャイコフスキー、かぶりつきで聴く生演奏、迫力があり心が躍り涙が出てくるような気がして酔いしました。ありがとうございました。

今日の企画、楽しみにしておりました。期待に違わずの内容でした。ありがとうございます。びわ湖ホールのオペラも楽しみにしております。

今回は、演奏に入る前に阪講師が質問に答える方式で講義いただきましたが、その後の演奏時の「指揮」の際に大変参考になりわかり易く良かったです。びわこホールで何回かオペラ公演に行きましたが、オペラ公演についてのお話を阪講師から「生」で聞いて、更にオペラ公演に行きたいと思いました。指揮者とコンサートマスター、そしてオーケストラとの関係等のお話も興味深く拝聴させていただきました。チャイコフスキーメドレー最高でした、ありがとうございました。

特別講座「指揮者」の内容に感激しました。
阪さんによる話だけと思っていましたが、阪さんの
ピアノ演奏もきけるなんて最高でした。鍵盤上の軽
やかな指の動きも拝見でき、本当に参加してよかつ
たです。
金本さんのお陰です。（MFさま）



♪音楽に関する「ことば」 「詩」「文学的成句」

芸術論集 みずす書房 ロマン罗兰著
ロマン罗兰全集19 340ページより

《各号スペースがあれば、田中の独断でい
いな~と思った「ことば」や「詩」・文学
的成句などを書いていきます。》

第一次世界大戦が迫る1913年、ロマン罗兰は、
右記のような「成句」を含む論文を旺盛に発表して
いる。「これらの「作品」を貫いているのは、様々
な作品（ジャンクリストフや魅せられたる魂、ベ
ートーヴェンの生涯）などの血と肉をなしている人間
的な愛と犯すべからざる心理の追求の精神である」
宮本正清 1960.1.18あとがきより

私の若い時、ない金をはたいて買ったロマン罗兰
全集、その中の宝石の様な文章から今回は取り上
げました。いつ読んででもすごいと思います。
（田中正恭）

「不幸なこととはといえば、私は凡庸な音楽を我慢するこ
とができない。私にとって、それは良き音楽を誹謗するバ
ンフレットのようなものだ。……」と彼は述べている。
彼の警句をおしてわれわれが心に深く刻みこんでおく
べきことは、芸術作品を完全に自己のものにする上で本質
的に重要な二つのもの、すなわち愛と知とのうちで、愛こ
そ彼にとっていっそう不可欠のものだということである。
そのばあい、愛は他ならぬ知の扉を開く鍵だからである。
しかもそれは、不幸なことに、芸術にたずさわる人々のあ
いだにも、きわめて稀れなものなのである。この愛のつね
にこんこんと湧き出る泉を、われわれはスタンダールのう
ちに見出す。……

次回は11月25日(月)

会場：鴨沂会館

13:00開場 13:30~15:30

オーボエ 戸田 雄太さん

オーボエは、ダブルリードの木管楽器で、オーケストラの
チューニングの基準の音に使われています。

前回お勉強しましたね。

今年最後の講座、オーボエの甘美な音色に、期待してください。



メモ

